

平成25年度第1回 福岡市美術館協議会 会議録

日 時	平成25年8月8日(木) 14:00~15:50
場 所	福岡市美術館 教養講座室
出席者	協議会委員：後藤委員外 計15名 福岡市美術館：錦織館長外 計15名 福岡アジア美術館：村上館長外 計9名
議題	(1) 会長の選任について (2) 福岡市美術館平成24年度事業報告について (3) 福岡アジア美術館平成24年度事業報告について (4) その他

1 開会

2 委員及び職員紹介

3 館長挨拶 (内容は省略)

錦織福岡市美術館館長挨拶

4 議題

(1) 会長の選任について

事務局： 福岡市美術館条例施行規則第23条第4項の規定により、会長不在の時は副会長が補佐する
ということで、龍副会長に審議をお願いする。

副会長： 選任については、福岡市美術館条例施行規則第23条第2項の規定により、委員の互選によ
り定めることになっているため、自薦、他薦を含め、推薦をお願いしたい。

(特に意見なし)

副会長： 推薦がないようなので、事務局からの提案があればお願いしたい。

事務局： 会長候補として後藤委員を推薦したい。

(反対意見なし 後藤委員に決定)

(2) 福岡市美術館平成24年度事業報告について

事務局： 報告

(3) 福岡アジア美術館平成24年度事業報告について

事務局： 報告

会長： いまの説明について、質問、意見等があればどうぞ。

説明を受け、両館とも年々歳々事業展開が多彩に充実してきた感がある。

委員： 子供向けの事業が多くなっていると感じる。小学生低学年3~4年生が目についたが、基本的

にどのくらいの年齢をターゲットにしているのか。年齢層を分けて考えているのか。

事務局： プログラムの内容によって分けている。基本的には分けたくないが内容次第である。

事務局： 絵本ミュージアムについては、未就学児～小学校中学年向き、ワークショップは小学校高学年から高校生対象としている。

会 長： 低学年は保護者もターゲットと考えているか。

事務局： 保護者も参加できるワークショップとしている。一人一人が来館者であるので。未就学児は両者にアプローチしている。ケースバイケースである。

委 員： クロニクル展では市内で同時に2つの美術館が連携というのは画期的である。今までも北九州市立美術館と福岡市美術館、今は福岡市美術館と動物園と連携しているが、福岡市美術館と福岡アジア美術館の連携ができないか。来年以降、何かしら連携ができないか。アジアとつなぐ展覧会ができないか。

会 長： 福岡市美術館と福岡アジア美術館とのコラボはあるのか。

事務局： 連携については検討しているし、具体化に向けて進行中である。福岡アジア美術館で開催されているトリエンナーレについても福岡市美術館が協力できないかと考えている。共同開催が難しいのは、特別展についてはマスコミの関係、1週間単位の巡回展などがあるため、同時開催はすぐには難しい。常設展のレベルで考えれば、もしかしたら来年度あたり実現できるかもしれない。

事務局： 美術館と同じ考えである。ミュージアム魅力向上委員会でも検討している。福岡市博物館も含めた3館の連携、また、その他の部局、観光関係や文化振興課との連携も図っていく。その中で、福岡市美術館と福岡アジア美術館の2館であれば比較的連携しやすいと考えている。

会 長： 両館長に今後のビジョンを伺いたい。

館 長： 委員の意見を聞いて虚を突かれた感じである。個人的には、福岡市美術館からアジア部門が独立して福岡アジア美術館ができたと考えていた。両館の学芸課長の説明があったように常設展レベルで考えれば比較的やりやすいかと思う。福岡アジア美術館はアジアの近現代の絵画を主に展示している。福岡市は、アジアとの接点というものを重要にしているが、アジアの古美術は置いていかれている。福岡市美術館がアジアの古美術を受け持っている。そういうことを考えれば、福岡アジア美術館と連携していくことは、今後考えていくべき分野である。

館 長： 24年度は教育委員会から経済観光文化局に移って、文化政策を一元的にやろうということになった年であり、市の政策にリンクされて両館が動くだろうし、動かざるを得ない。福岡市美術館も福岡アジア美術館もそれぞれの特徴を持っている。いかに外にピーアールしていくか。これまでは単独で行っていたが、市の部局をまたがって、観光という切り口

を生かし、より連携する機会があると思うし、また、やっていかなければいけないと考えている。萩尾部長は3館の部長でもあるので、トータルで美術館政策がやりやすくなると思う。

事務局： 3館連絡会議があったばかりである。美術館について言えば、性格の違う美術館が町中にあるということは非常に豊かな美術環境である。何年ごとにテーマを決めて共通で事業をやるということは一つの可能性である。

また民間の美術館・博物館等を含め連携がとれないか連絡会議を準備している。

会長： テーマは同じでも違った切り口の3館の展覧会が開催されることを待っている。

委員： 菊畑展は感動した。長崎県美と企画展があったが非常に良かった。今後は九州だけではなく全国の美術館を対象にしながら、福岡市をテーマに特別企画展をやってほしい。アジア美術館は、九州とアジアというテーマで企画展を視点を変えてやってほしい。美術の視点から足元を見るということも大切である。

事務局： 展覧会の組み立て方が変わってきている。共同企画展や巡回展、学芸員間で連携してやっていく。

委員： 説明がなかったが、福岡市美術館は研究紀要があったのでは。

事務局： 報告漏れである。平成24年度から研究紀要を創刊した。日頃の学芸員の研究成果を発表する場として、今後毎年発行していく。

委員： 学芸員が活躍しているのに研究紀要がないのはおかしなこととっていた。活動の成果が一般公開されるということはすばらしいことである。

会長： 紀要はどのレベルまで配付されているのか。無償と思うが。

事務局： 大学や図書館等に500部ほど配布している。発行部数は700部である。

会長： 希望者に、有償で配付することは考えていないのか。

事務局： 今のところ考えていない。

会長： 科研費の資格がとれたのか。連動しているのか。どちらが先か。

事務局： 連動している。科研費の資格をとることを先行していた。用件を満たしていくための論文の発表ということもあるが、34年間の調査研究の蓄積を順次公開していくことが義務だと思っている。

委員： 今回のエスプラナードは驚いたが。

事務局： エスプラナードのデザインを一新しようと昨年公募を行い、20名ほどの応募があった。向こう2年間8回分の発行を毎回判型を変えて発行する。また、編集者も毎回替わる予定である。批判もあると思うが常識を覆し、冒険していきたい。

会長： つきなみ講座ができ、館長自ら講師をされて大変よかった。

委員： リニューアルの状況と3ヶ月休館、ギャラリーの使用状況はどうなっているか。中は全然

変わってないとみうけられるが、夏休みの教育普及についてはいかがか。

事務局： 平成24年度は、基本設計を行った。現在は、具体的な事業費・工事費を精査している。厳しい経済状況の中で、PFI事業を含め、最もふさわしい事業手法について調査している。現在休館しているのは、リニューアル中も保存できる場所を確保するため、施設を一部改造している。

市民ギャラリーについては、福岡県立美術館、福岡アジア美術館に協力依頼を行った。また、通常3部屋、2部屋利用される団体に部屋数を減らしてもらうよう事前調整などを行った。

事務局： 市民に貸し出している交流ギャラリーを2分割して対応したが、応募したのは3団体であった。やはり広いエリアでやりたいという意向が強いようである。

なお、7月～12月の当選率は約70%、企画ギャラリーを含めると約80%である。内部で利用基準を決めているが、優先するのは、第一は市の主催・共催、第二が学校関係となっている。

委員： スクールツアーで福岡市美術館を利用した学校が大変喜んでいて報告する。

会長： 今回初めてである深野委員はいかがか。

委員： 今まで鑑賞者の立場だったが、運営の立場から発言や取り組みを聞いて感銘を受けた。

副会長： 福岡アジア美術館というのは、美術だけではなく歴史と大きく関わっていると思う。そういう立場から、関連したもののインフォメーションがあるといい。たとえば、資料12ページのアンタリクサ氏の「戦時下におけるアジアのイメージ」をテーマは、非常に珍しい研究であり、非常にスポットである。こういうものを少しインフォメーションしてもらいとありがたい。

会長： ホームページ等で紹介されていないのか。福岡アジア美術館の招聘研究者の研究成果を、市民はどこで見られるのか。

事務局： 研究成果まではホームページ等にアップしていない。現在は研究成果を公開するシステムがない。今後の課題である。

会長： 本日はいろいろな意見がでたが、よりよい美術館に向けて頑張ってもらいたい。

5 館長挨拶（内容は省略）

村上福岡アジア美術館館長挨拶

6 閉会

- 添付資料 1. 委員名簿
2. 資料